

# 令和 6 年度事業計画

(令和 6 年 3 月 1 日から令和 7 年 2 月 28 日まで)

## <令和 6 年度の活動指針>

- ① 将来構想委員会の提言「持続可能で活発な日本油化学会への脱皮」の実現を目指す。そのために、社会的にも世界的にもニーズが高く、オレオサイエンスと親和性が高い課題「サステナビリティ」と「ウェルビーイング」を切り口に、油化学会だからこそできる未来への貢献を定め、未来を良い方向に導く研究成果と人材の輩出に貢献する学会として使命を果たす。
- ② 最新の研究成果を討論する年会「第 62 回日本油化学会年会」は、「なせば成るオレオの力でイノベーション！」をキャッチフレーズに、活発な討論と人脈形成ができる場を提供する。学会の強みである連携を促進する取り組み「産学連携シンポジウム」を企画する。また昨年年会に導入し好評だった「完成度より斬新性を重視した」Select Lectures を継続して、オレオサイエンスの可能性を討論するニーズに応える。実行委員長は野々村美宗、会期は 9 月 3 日(火)-5 日(木)、開催地は山形大学。
- ③ 若手会員の能力向上と会員増強を目指して行っている教育事業は、利便性が定着した on-demand video と virtual 参加の機会を残しつつ、講師と受講者が活発な質問と交流ができる in-person 参加の機会を適切にプログラムに組み込み利用者の理解がより深まるよう貢献する。
- ④ オレオサイエンスの深耕と普及に関する事業は、各専門分野を担う部会と支部が主体となって深耕の成果を魅力的な講演会として企画し、受講者が交流可能な in-person 形式で開催して普及に貢献する。
- ⑤ 学術論文誌 Journal of Oleo Science (JOS) は、一流のオープンアクセスジャーナルを扱う Directory of Open Access journal (DOAJ) に掲載されたことを弾みに投稿数と論文の質向上に務めて世界一流のジャーナルを目指す。そのために、World Congress on Oleo Science 2022, 年会に導入した Select Lectures 等の Hot な情報を特集号として発刊し、国内外に敏速に発信することに努める。
- ⑥ 社会貢献の一環として、一般財団法人油脂工業会館との共催で実施している市民講座(地区講演会)は、本年度も 3 支部が中心となり 4 都市で開催する。

## 1. 会務

### 1.1 総会

代議員を社員とする第 70 回定時総会を令和 6 年 4 月 22 日(月)に油脂工業会館を開催基地として Virtual 会議システムを併用して開催する。令和 5 年度事業報告(報告事項)、令和 5 年度決算案などについて審議し、令和 6 年度の役員を選任を行う。定時総会終了後、総会報告会を開催し、定時総会および新執行体制について報告する。さらに令和 5 年度日本油化学会のフェロー推戴ならびに学会賞、進歩賞、功績賞の表彰式、特別講演会などを開催する。また、懇親会を開催してコロナ禍で薄れつつある会員間の親睦を深める。

### 1.2 理事会

令和 6 年度の理事会の開催予定は 5 回。油化学会だからこそできる未来への貢献、令和 6 年度の資金運用方針、第 62 回年会の開催、令和 6 年度事業報告案および決算案を審議決定する。また令和 7 年度の事業計画および予算を策定し、令和 7 年度諸事業計画の企画・実行、諸規則類の整備・改定等、重要案件を審議決定する。

### 1.3 運営委員会

運営委員会の開催予定 6 回。運営会議は必要に応じて開催する。運営委員会および運営会議は理事会に上程する重要案件について詳細な審議を行うが、さらに日本油化学会の持続的な財務基盤の構築および活動の活発化につながる議論を進める。

## 1.4 業務委員会およびその他委員会

本会の業務を担当する総務、財務、国際交流、オレオサイエンス編集、JOS 編集の各委員会 は、それぞれ公益社団法人としての内部体制と諸規則類の整備、収支バランスを踏まえた学会活動の財務的支援、海外の学術団体および工業会などとの共同活動推進、アジア中東地域での No.1 学術誌を目指した国際情報発信の強化を継続して進める。また、企画・部会統括委員会は本部・支部・各専門部会が企画する講演会やセミナー等の事業の円滑な実施に向け、事業の内容やスケジュールの調整ならびに相互情報交換を進める。

## 2 事業計画

### 2.1 (公 1) 研究成果の公開, 人材教育, 研究の奨励及び業績の表彰を行う事業

#### 2.1.1 研究成果の公開

##### (1) 日本油化学会第 62 回年会の開催

野々村 美宗 実行委員長(山形大学)のもと山形大学にて 9 月 3 日(火)～5 日(木)に開催する。「なせば成るオレオの力でイノベーション」をキャッチフレーズに、活発な討論と人脈形成の喜びを享受できる場を提供する。学会の強みである連携を促進する取り組み「産学連携シンポジウム」を企画し、また昨年年会に導入し好評だった「完成度より斬新性を重視した」Select Lecture を継続して、オレオサイエンスの可能性を討論するニーズに応える。また従来から好評の専門部会が自主的に企画して開催するシンポジウムも一部復活させて年会の機会を最大限活用する。

##### (2) 論文誌・会員誌の発行

JOS 編集委員会は、論文誌「Journal of Oleo Science」を 12 号発行する。会員ならびに国内外研究者からの「JOS」への積極的な投稿が増えるよう、早期公開制度や関連研究者への働きかけなどを継続する。年会に導入した Select Lecture 等の Hot な情報を特集号として発刊し、国内外への敏速な発信に努める。オンライン投稿審査システムを基盤に、査読者選定システムも活用して、外国人を増やすなど査読者の増加・多様化をはかる。また、剽窃チェックシステムや英文校閲を活用し、本誌の品格維持/向上にも努める。さらに、特に内外の若手研究者の交流・ネットワーク形成等の教育的支援を通し、将来的な JOS の「国際情報発信強化」に繋げる。電子版 JOS は、アクセス・閲覧・引用がしやすい web システムを目指し向上に努める。

会員誌「オレオサイエンス」を 12 号発行する。オレオサイエンス編集委員会は、総説約 35 件からなる特集企画、若手研究者紹介、油脂関連情報、抄録、会務記事など有益情報の早期発信を推進するとともに、第 62 回年会の話題づくり、学術専門委員会との共同企画の Topics in Oleo Science の継続、会員が参画する紙面の充実など、さらに有用かつ魅力ある会誌づくりに努める。なお、令和 5 年に構築したオレオサイエンス専用の website 運営は継続し、会員数が増えるよう情報発信に努める。

#### 2.1.2 人材教育

若手会員の能力向上と会員増強を目指して行っている教育事業、フレッシュマンセミナー、実践講座、試験法セミナー、サマースクールなどのセミナーは、on-demand video による繰り返し視聴が受講者の理解度向上に有効であり、また地方からの受講が可能な virtual 方式も好評なため本聴講方法を講演プログラムに残しつつ、講師と受講者が活発な質問と交流ができる in-person 参加の機会をプログラムに適宜に組み入れて開催する。

若手研究者・技術者の活発な交流を目的に開催している「若手の会サマースクール」は、宿泊形式にて開催して研究および人的交流の機会を提供する。

上記のフレッシュマンセミナー等の本部事業は年 4 回の企画・部会統括委員会の開催により企画、運営を行う。また、各支部、専門部会の事業において、それぞれのリーダーのもと、独自に運

営を行うが、企画・部会統括委員長が年2回開催する全体会議で講演会等のスケジュールや内容の情報交換や部会運営体制の確認などを行う。

### 2.1.3 研究の奨励・業績の表彰

油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に、著しい成果をあげた研究者を表彰する。本科学分野で著しい成果を上げた研究者へは日本油化学会 学会賞を、そして本工業分野で著しい成果をあげた者へは日本油化学会 工業技術者賞を授与する。若手研究者には論文業績に対して日本油化学会進歩賞を、そして年会では斬新な研究として選考して者には Select Lecture Award を、また一般の口頭発表に対しては若手の優れた発表にヤングフェロー賞を、特に国際発信力に優れた英語の研究発表には英国王立化学会 (RSC: Royal Society of Chemistry) と共同で RSC Advances 賞を、学生には学生奨励賞等を贈り研究を奨励する。

また JOS とオレオサイエンスの優れた論文著者に贈るエディター賞、インパクト賞、ベストオーサー賞、オレオサイエンス賞と、学会への功績者の表彰についても継続する。

## 2.2 (公2) 評価・試験法の標準化と普及を行う事業

日本における油脂試験法の公定法となっている、本学会が制定した基準油脂分析試験法に新たな試験法として、推奨法2項(奨8-2020「全窒素及び粗タンパク質(燃焼法)」, 奨9-2020「遊離ゴシポール(高速液体クロマトグラフ法)」)を加えた2024年増補版を令和6年上期に日本語で発刊する。同時に標準法を2項、推奨法を2項、参考法を1項、ならびに米国油化学会 AOCS と共同開発し相互採用した JOCS-AOCS 共同分析法3項を加えた 3rd English Edition 2024 を発刊する。そして、本試験法の普及と技能向上,ならびにトレンド情報の提供を目的に、品質管理や研究開発を担う技術系職員および学生を対象に、11月に第23回基準油脂分析試験法セミナーを Virtual と in-Person 方式で同時開催する。

## 2.3 (公3) 地域における学術の振興と普及を行う事業

各支部による講演会・セミナー等は、交流を重視して in-Person を主に開催する。そして支部活動の一環である(一財)油脂工業会館共催の地区講演会・セミナーは、関東支部は、10月に前橋市でテーマ「油脂と私たちの健康」の講演会、東海支部は6月に愛知県蒲郡市でテーマ「樹脂材料界面の制御・評価・観察」の講演会、関西支部は6ないし7月に大阪市でテーマ「界面科学と界面活性剤」の講演会と11月に関西周辺都市で別途オレオサイエンスに関する講演会を、それぞれ開催する予定である。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を積極的に行い、地域における学術振興・普及に努める。

## 2.4 (公4) 学術専門分野の活性化事業

専門部会活動については、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、ライフサイエンス・産業技術部会、オレオナノサイエンス部会およびマスターズクラブの体制で展開する。日本油化学会活動の基盤は専門部会活動が担うとの共通認識のもと、常に独自性、さらにグローバル視点も意識しながら学術専門分野の活性化・強化に努める。各専門部会は部会長の指導のもと、専門性の追究と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー・講習会等の充実と定着化を図る。マスターズクラブは学際的な視点・分野横断的な視点も加えた活動を展開する。年会においては Select Lecture の成功のために普及と選考に貢献する。

(463回 理事会決議)